

総務省

経験者採用試験 (係長級(技術))

～総務省における即戦力となる人材を募集～



国家公務員採用情報NAVI

○ 受験資格

試験年度の4月1日において、高等学校を卒業した日等から起算して12年を経過した方で、高等学校、高等専門学校、専門学校（専門課程、高等課程）、大学、大学院などで電気、電子、通信、情報工学、機械、物理又は化学に関する課程(※)を修めて卒業又は修了した方

※医・薬・農・土木等の理系課程を含みます。詳細な受験資格は人事院ホームページ「国家公務員採用情報NAVI」の受験案内をご覧ください。

○ 求める人材

- ・情報通信行政への強い関心、熱意のある方
- ・社会人として培った能力や経験を、即戦力として課題解決に活かしていただけの方
- ・様々な業務や研修を通じた知識習得や能力の向上に対して、前向きに取り組んでいただけの方
- ・情報通信分野(ネットワーク・セキュリティ・電波等)の知識・経験を有する方

1 組織概要

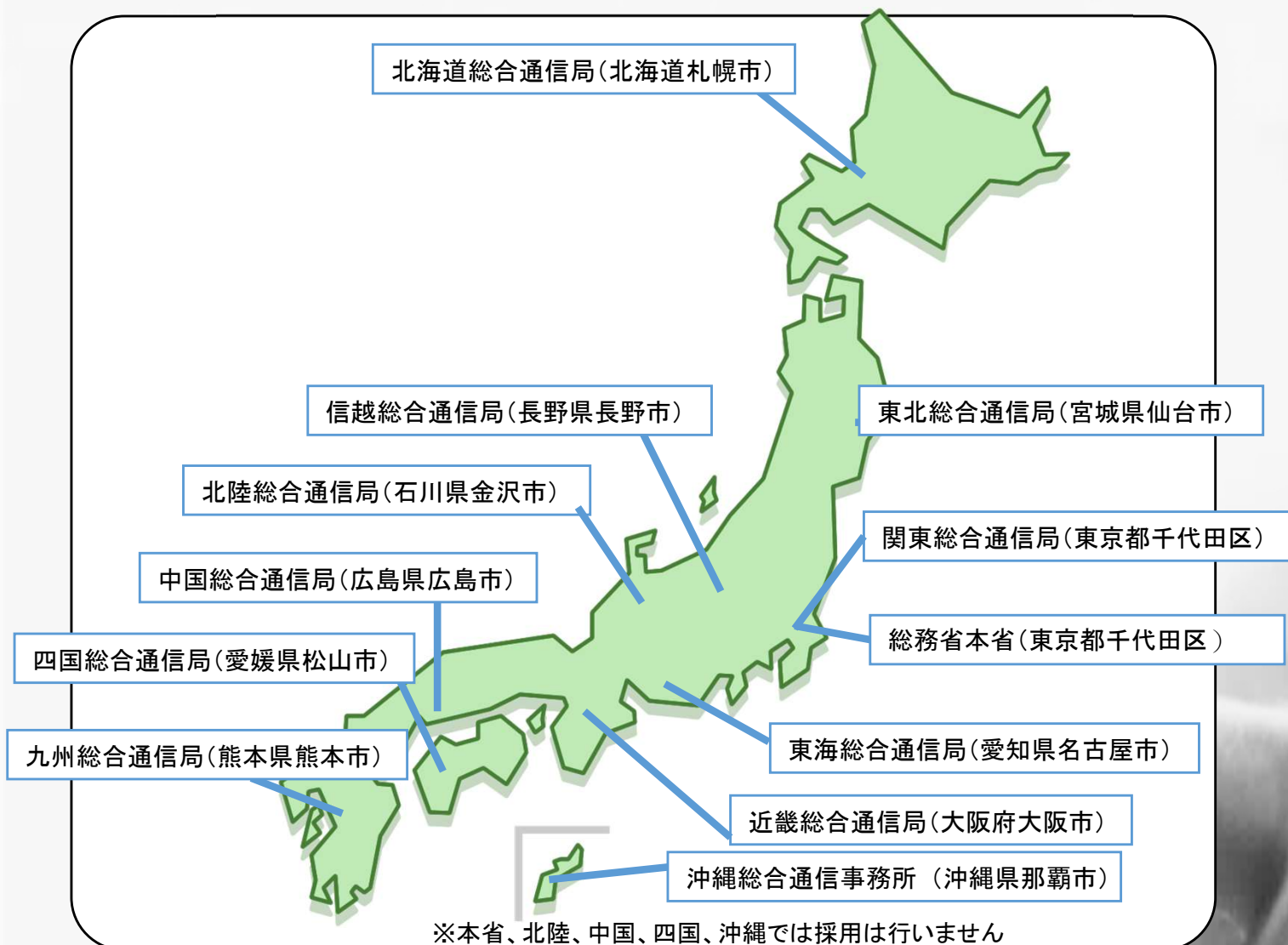
○ 総務省の組織と業務

総務省(本省)は、東京都千代田区霞が関にあり、組織としては総務大臣の下、1官房、9局、2外局(公害等調整委員会、消防庁)、地方支分部局(管区行政評価局、総合通信局)などが置かれており、約4,800人の職員が所属しています。

総合通信局および総合通信事務所は全国11の地域ごとに設置され、「情報通信行政に関する施策の実施機関」として、地方公共団体や地域の企業とともに業務を行います。

総務省では、基本的な行政制度の管理・運営や統計行政、情報通信技術(ICT)を活用した成長戦略の実現、地方自治や消防・救急行政など日本全国にわたる基本的な仕組み、国民の経済・社会活動に関わる諸制度を所掌し、国家の根本を支えています。

採用後は、本人の希望等から、総合通信局(沖縄総合事務局を除く)7局のいずれかに配属となり、係長級職員として業務の最前線でご活躍いただきます。



総合通信局等の主な業務

- 電波の利用ルール の周知、遵守状況の監理
- 電波の有効活用に向けた取り組み
- 魅力ある放送サービスの普及促進
- 安心で快適な情報通信サービスの実現
- ICTを利活用した地域づくりの推進 等



※詳細は、総務省HPをご覧ください。

2 給与・福利厚生等

○ 給与

採用時の俸給月額、採用者の経験年数と同程度の経験年数を有する国家公務員採用一般職試験(大卒程度試験)又は国家公務員採用Ⅱ種試験により採用された職員が受ける俸給月額との均衡を考慮して決定されます。

(参考)国家公務員試験一般職試験(大卒程度試験)による採用後10年の経験年数を有する職員の標準的な俸給月額 ……287,200円

上記のほか、次のような諸手当が支給されます。

地域手当 主に民間賃金の高い地域に勤務する職員に支給

例:東京都特別区内に勤務する場合は、俸給等の100分の20

(地域手当の有無及び額は勤務地により異なります)

扶養手当 扶養親族のある者に、子月額13,000円等

住居手当 借家に住んでいる者等に、月額最高28,000円

通勤手当 交通機関を利用している者等に、定期券相当額(1箇月あたり最高150,000円)

期末手当・勤勉手当(いわゆるボーナス) 1年間に俸給等の約4.65月分

※この額は、令和8年4月1日現在の「一般職の職員の給与に関する法律」の規定によるものです。最新の情報は人事院ホームページ「国家公務員採用情報NAVI」から、受験される年度の受験案内をご覧ください。

○ 勤務時間・休暇・職場環境等

勤務時間は原則1日7時間45分で、土・日曜日及び祝日等の休日は休みです。

休暇は、年次休暇(年20日(4月1日採用の場合、採用の年は15日)。残日数は20日を限度として翌年に繰越し)の他、病気休暇、特別休暇(夏季・結婚・出産・忌引・ボランティア等)及び介護休暇などがあります。

また、総務省では全ての職員が仕事とプライベート双方の満足度を高めつつ、職員一人ひとりの能力を最大限発揮できる職場環境の整備に取り組んでいます。

例えば、「テレワークの推進省庁」として、テレワークを積極的に利用できる環境があるほか、多数の職員が育児休業制度等を活用しており、ワークライフバランスの取れた働き方を実現しています。



3 先輩職員の声

○ 先輩職員インタビュー

総務省情報流通行政局情報通信作品振興課 主査

宮島 高德（令和2年入省）

採用された後はどんな生活になるの

経験者採用ということで、採用後すぐに慣れない現場に放り出されるようなイメージがあるかも知れませんが、そんなことはありませんので安心して下さい(笑)。自分の場合も、先輩方の丁寧な指導・研修等がありましたので、うまく業務に入っていました。

仕事内容については、当然、忙しいときもありますが、テレワークを積極的に利用できる環境があるほか、周りでも多数の職員が育児休業制度等を活用できていたり、意外な印象かも知れませんが、ワークライフバランスは充実しており、仕事とプライベートの両立ができる生活だといえます。



転職を目指す方へのメッセージ

長い目で見た場合、やはり「どこに勤めているか？」ではなく「どんな仕事をしているか？」という方が重要かと思います。そういった意味でも、国家公務員は、国の仕事ということで、予算・許認可など民間では絶対にできない業務・経験がたくさん得られます。一度しかない人生です、たくさんの経験ができるのは素晴らしいことだと思います。

民間から国家公務員への転職というのはなかなか馴染みがないかも知れませんが、総務省では多くの経験者採用者が活躍していますし、そういった意味では中途入省でも溶け込み易い職場環境だと思います。みなさんの民間経験や発想を生かしつつ、貴重な経験が出来る場だと思いますので、是非応募してみてください。

Profile:

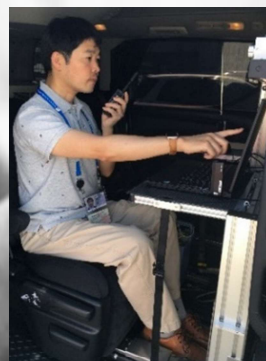
地方放送局勤務を経て、令和2年4月1日に信越総合通信局無線通信部電波利用企画課に配属、令和5年7月14日より現職。

総務省 四国総合通信局 監視調査課 電波監視官

浅田 昂洋(令和3年入省)

採用試験の感想を合格者視点で教えてください

経験者採用ということもあり論文と面接が重視されているように感じました。ただ、基礎能力試験で基準点未満ですと先に進めないのが最低限乗り越える必要はあります。3次試験の総合評価面接試験は1日で2、30分の面接を複数回受けることとなります。係長級としての採用ですので部下との関わり方を問われたのが印象に残っています。今までの職務を振り返ってしっかり整理しておくと思いいます。



転職を目指す方へのメッセージ

私は2回不合格となり3回目で合格、採用となりました。1度不合格となったからといって諦める必要はありません。複数回受験することを理由に拒否されることはありません。むしろ顔を覚えていただいていたと思います。(実話)

総合通信局はどの部署に配属されたとしても何かしら情報通信に係わっていますので、情報通信に興味がある方は楽しく仕事をやっていけるかと思います。また、条件を満たし、選抜されれば南極遠征に行くチャンスもあります。ふと転職を思い立った方、ぜひ挑戦してみてください。

Profile:

前職はケーブルテレビ局の技術職として勤務。令和3年4月1日に四国総合通信局電波利用企画課に配属、令和6年4月1日より現職。写真はG7広島サミットにおける特別電波監視業務中の様子。

総務省 東海総合通信局 電波監理部監視調査課

電波監視官 近藤 佳之(令和5年入省)

国家公務員への転職動機を教えてください

広く世の中に貢献したいと公務員を志望し、地元の地方公共団体に奉職し、住民生活に密着したサービス提供、地域における課題解決につながる施策の立案に携わってきました。

働きやすい職場で充実した毎日を過ごしていたところ、定年まで折り返し地点となり、同僚の転職をきっかけに自身の振り返りをしました。

20数年前、省庁合同説明会や官庁訪問を通して、警察、消防・救急等の重要無線の安定通信確保や無線局免許の許認可を行う総合通信局の仕事に興味を持ち、志したことを思い返しました。

多種多様な住民ニーズに対応してきた地方公共団体での経験を生かし違った視点での提案や企画を通して、電波をはじめとした情報通信行政に貢献したいと考え、転職しました。



転職を目指す方へのメッセージ

国家公務員は社会のため、国民の暮らしを守り、より良くするため、職務を通じて貢献することができる魅力的な仕事です。

皆さんがお持ちの通信や無線などの専門的な知識を即戦力として生かすことができますし、身につけている分野が違ったとしても職場には経験豊富な職員が多いため、やる気さえあれば心配ありません。また、経験者採用として総合通信局に配属され、数年業務を経験された後、本省に転任して政策立案や情報通信の制度設計に従事している先輩職員も多くいます。ぜひ皆さんがお持ちの民間の視点、考え方を生かしてみませんか？

Profile:

IT企業や地方公共団体におけるシステム運用等の勤務を経て、令和5年4月1日に東海総合通信局情報通信部情報通信振興課に配属、令和6年4月1日より現職。

4 試験スケジュール等

○ 試験スケジュール

標準的な試験スケジュールについては以下のとおりです。毎年度の試験情報は、確定次第、人事院ホームページ「国家公務員採用情報NAVI」に掲載いたします。

※二次～三次試験は、東京都内で実施いたします。(三次試験は平日に実施する可能性があります。)

※各試験の実施時期は、**令和6年度試験の実績を記載**しています。

(年度により変動する場合がございますので、「国家公務員採用NAVI」をご確認ください。)

試験の申し込み

(7月下旬～8月中旬)

・人事院ホームページ「国家公務員採用情報NAVI」にて、申込みを受け付けています。

一次試験

(10月上旬)

- ・基礎能力試験(多肢選択式)
- ・経験論文試験(記述式)

二次試験

(11月中旬)

- ・人物試験
人柄、対人能力などについての個別面接を実施します。

三次試験

(11月下旬～12月上旬)

- ・総合評価面接試験
対象となる官職に必要とされる適性についての個別面接を実施します。

最終合格

(12月下旬)

最終合格後、原則として翌年の4月1日に採用となります。



国家公務員採用情報NAVI